

安全な医療は、まず患者さんのお名前を 言っていたただくことから始まります！

病院で名前を聞かれる理由

「お名前を教えてくださいただけますか？」

医療機関を受診した際に、何度となく聞かれると思います。どうして繰り返し名前を聞かれるのでしょうか？

医療とは、病気の診断や治療のため、採血や検査を受けたり、薬を飲む、手術を受けるなど患者さんの体が何らかの介入を受ける行為です。必要で誤った侵襲は避けなければなりません。患者さんの取り違えによって誤った治療がなされてしまった事例が少なからず生じてきました。本人を確認する際に、「○○○さんですか？」と質問され、実際は別の方だったがとつさに返事をしてしまい、取り違えて診療がなされてしまうなどの事例は、特に耳の遠い高齢の患者さんでは、いつでも起こり得ます。「名前と呼ぶ」のではなく「名前を言ってもらおう」行為は、

今日では安全な医療を提供するための基本的なプロセスとなっています。長年通院しているかかりつけのクリニックでは、医師も医療スタッフも顔見知りですから、患者さん間違い可能性は低いのですが、多くの患者さんが受診し、多くのスタッフが医療に関わるほど、この「お名前を教えてくださいませんか？」の徹底が大

切だと考えています。

事故が発生しにくいシステムづくり

誰しもご自身が受ける医療は、最も効果的かつ最も安全であつて欲しいと思うのが当然です。しかし、医療に限らず社会生活の中で100%安全と言い切れることはほとんどありません。

「この薬に副作用はありますか？」と質問されることがありますが、副作用が全くない薬は残念ながら存在しません。

では、その安全性を高めるにはどうしたらよいか？医療が高度化、専門化、複雑化していく中で、当院でも多くの取り組みを行っています。

当院における医療の安全管理に関する基本的な考え方は、「事故が発生しにくいシステムの構築をめざす」ことであり、「人間は間違える」という認識に沿ったシステムづくりをめざしていくことにあります。医療安全対策部は、院内の医療安全管理を担う部門として、医師や看護師、医療スタッフや事務職員などの多職種が専任、兼務スタッフとなり、そのシステム構築に取り組んでいます。

地域の皆さんに信頼していただくために大切なのは、まずは、確かな医療技術だと思えます。採血や点

滴ルート確保

に始まる基本的な医療行為は、決められた手順を体得することが極めて重要ですので、シミュレーターなどを積極的に活用した技術教育を行っています。

同様に、技術面以外のコミュニケーション能力も、安全の確保さ

らには患者さんとの信頼関係構築に大切なことです。

多くの重症患者さんに対する高度な医療を担う当院では、入院してから退院するまで全診療科の平均で14日間と短く、私の所属する循環器内科では約9日間です。本来は時間をかけて信頼関係を構築することがより良い医療には大切だと思っておりますが、そういうわけにはいかないのが現状ですので、限られた時間の中で患者さんの思いや考えを十分に共有していくための、コミュニケーション能力もますます大切になって

お名まえもどうぞ
ありがとうございます。

お名まえを私たちは何度もお聞きします。
お名まえの確認は医療安全の基本。当院にはたくさんの方がいらっしやいます。ご本人にフルネームを言っていたただくのが一番確かです。

同姓や似た名まえはたくさんあり、あなたの治療にはたくさんの医療者がかわっています。万一、まちがいがおきると、大きな事故につながることもあります。だから、ご本人にフルネームを言っていたただくことで、とても助かります。ご理解とご協力をお願いいたします。

知ってる仲にも確認あり！



Yuzo

何度も聞いてごめんなさい



Kikko



いのちをまもる PARTNERS
医療安全全国共同行動

医療安全全国共同行動目標8 患者・市民の医療参加

いきます。これには、先輩スタッフが良い手本となることが若手スタッフの教育に大事だと思えますし、私自身もそうありたいと思えます。「もう一度お名前を教えてくださいませんか？」今日もお伺いすると思えますが、面倒と思わずにご協力ください。そして初対面のスタッフから名前を聞かれなかったら、「名前は聞かなくていいの？」とぜひご指導ください。安全で質の高い病院にしていくためには、地域の皆さんのお力添えが必要です。今後ともよろしくお願いいたします。

自治医科大学附属病院 医療安全対策部
自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門

新保 昌久
しんぼ まさひさ